

民主主義が根付いた国 デンマーク

生活介護事業 生活支援員 小山信弘

はじめに

今回の視察にあたり、前回法人創立45周年を機にデンマークとスウェーデンの北欧視察をした時の報告書を読みました。25年前のデンマークは、「自分に必要な時に必要なだけ福祉サービスが提供され、一人ひとりを大切に自分らしい暮らしがなされていた」と書かれていました。私が入職した2001年頃、「豊かな暮らしが出来るように」「当たり前前の暮らしが出来るように」と言われており、「その人らしい暮らし」には到達していなかったように思われます。

また「自己選択・自己決定が常に保障されていた」とも書かれており、一律に比較することは出来ませんが、日本では未だに自己選択の幅が限られ本当の意味での自己決定が保障されていません。ただ一方25年の経過のなかでその当時到達していなかった「個室化が基本」になり「ニーズの多様化」に不十分ながら対応する方向に進展するなど、足取りは遅いですが着実に権利保障は進歩していると感じることができました。前回の北欧視察から今回デンマークはどのように進展したのか、また日本はどのような方向に進展していくべきかテーマを持ち視察を行いました。

支援教育の現場では

ある資料によるとデンマークは国民の85%が幸せと感じており、国連の世界幸福度報告書にも、世界で一番住みやすい国と評価されています。視察及び事前学習を通じて高福祉だけが理由でなく、教育、福祉、医療のなかに一貫して民主主義が根付いているためだと感じました。

キルケバークスコーレン（障害を持つ児童の学校）の校長は、「民主主義の考え方を理解し、それを実行できるよう学校で教えている」と説明がありました。民主主義の国として大切にしていることは、意見を表明する権利があり、障害の有無に関係なく全てのものに保障され、学校教育のなかで如何に自分の思いを表現する方法を身に付けるのか。一人ひとりに合った福祉機器を使い表現方法を身に付ける支援教育がなされています。

自分の言葉で意見を表明できるが時間が掛かる生徒や、うまく話せない生徒、言葉で意見を表明できない生徒それぞれに合ったコミュニケーションツールがあることの説明を受けました。

前回の視察では自己決定が常に保障されているとのことでしたが、今回の視察では自己決定を行ううえで前提となる、意見表明に障害がある方の意思決定を如何に支援しているのか知ることができました。

保育の現場では

「森の幼稚園」では、森のなかで9時から15時まで過ごすプログラムになっており午前の保育に同行しました。森のなかでは決められたプログラムが無く、質問するなかで先生達は共通して「社会のなかで生きていく力」「コミュニケーション能力」に繋がる保育をしていると答えてくれました。



開放的な環境のなかで「どこで遊ぶのか」「何をするのか」など子ども達自身が決め、先生はあまり口出しする様子はありませんでした。

国から指定された保育方針などはなく、「大人になった時に民主主義のなかで生きていく力の基礎」が身に付く保育を先生達のなかで共有されていると感じました。

社会福祉・社会保障のあり方について

前回の北欧視察時から財源問題は深刻な様相をみせていたと報告書に書いてありました。今回の視察のなかでも高税率は働く意欲を削ぐため税率が下がってきていると説明がありました。（ただ税率は下がったが失業保険費など別の項目で徴収され以前と税金徴収率は変わらないとのこと）また文献などによると国民のなかには少なからず税金を下げしてほしいという声はあります。

視察及び文献から社会福祉・社会保障における高福祉高負担を支えるのは、福祉の恩恵が生涯受けられるだけが理由でなく、①福祉を築き上げた地方分権政治、②歴史的背景、③民主主義を支える教育ではないかと思いました。

- ① 国民は高い税金を納めても、高い投票率に選ばれた信頼できる政府によって自分が払った税金が社会保障に使われ、分権政治により見える形で還元されているこ

とに納得しているためです。

② 歴史的背景として 1866 年世界で初めて農業協同組合が作られ、20 世紀に入り近代工業化が進み農村で働いていた人が都市労働者となり、農業協同組合の経験を生かしそこでも労働組合を作っています。突然の解雇や事故、病気になったとき困らないよう、組合員たちが助けあえる「共生・連帯」の精神が「社会福祉国家」へと受け継がれたと思われます。

③ 「障害のある児童の学校」や「森の幼稚園」で触れた通りです。

上記の 3 点がデンマークの社会福祉・社会保障を支えていると考えられます。

デンマークから学ぶもの

民主主義を構成する「自由・平等・共生・連帯」が教育や支援のなかで具体化され、思考様式、生活様式のなかに根付いていると感じました。

一方日本は民主主義国家ではありますが、国民の声とは全く違った方向で国政が動くことが多く、政治離れ、政治不信があります。ただそれらは歴史的に見た場合一時の現象面であり、人間の権利性は常に進歩していると思っています。

25 年前に北欧視察した時の報告書を読み、日本がその当時到達していなかったものが不十分ながら今の社会のなかで到達しているものもあります。今回直接肌で触れたデンマークでの制度や福祉の現実、そして民主主義のあり方について、日本も年月を掛けながら国民の声と福祉運動によって近づいていくものと考えています。そのために自分は何ができるのか考え、今回学んだことを職場や、福祉運動のなかで活かしていきたいと考えました。

